

# アサヒグループ 「アルコールと健康」研究に関する原則

## 目的

アサヒグループは、社会の進歩や新しい発想、技術の開発、イノベーションには、研究が不可欠であると考えています。研究とは、問題の解決策を見出し、知識を広げ、世界に対する理解を深めることを目的とした調査プロセスです。私たちは、世界中で研究課題の推進に尽力している社員やパートナーのことを誇りに思っています。

大手アルコール飲料企業として、私たちは個人と社会が責任ある飲酒を実践できるようにポジティブな影響を与えることを目指しています。大多数の人々が責任ある飲酒をしている一方で、残念ながら一部の不適切な飲酒は、その消費者本人だけでなく、その家族や友人、さらには地域社会にも悪影響を及ぼしかねません。アサヒグループは、アルコールの有害な使用を撲滅し、不適切な飲酒をする人がいない社会を実現するために、あらゆる取組みを支援しています。このような観点から、アサヒグループは、「アルコールと健康」に関する研究を支援・実施することが重要であると考え、ここに、そのような研究活動の原則を以下のように定めます。

## 原則

アサヒグループは、アルコール業界の幹部、政府関係者、科学者、公衆衛生の専門家などが、アルコールの消費、誤用、影響、性質およびアルコールと健康、社会との関係をより良く理解する科学的研究の自由を支援する「ダブリン原則」を支持しています。そのため、アサヒグループが実施・委託・助成する「アルコールと健康」に関する研究は、以下の原則を遵守します。

- あらゆる側面からアルコールに関する知識を深め、飲酒と飲酒に伴うリスクに関する正確な情報を提供する。これは、アルコールが健康に良い影響を与えるとの主張をするためではなく、有害なアルコール使用の削減と責任ある飲酒の推進に貢献することを目的とする。
- 研究は、アルコール政策に影響を与え得る分野、例えば、価格設定、入手可能性、またはアルコール消費の公衆衛生的側面に焦点を当てたものであってはならない。
- 研究活動の計画及び実施（研究方法の選択および結果の分析を含む）は、研究者自身が行うものとする。研究の正当性を担保しなければならない。

- 研究者は、アルコール研究の実施および報告において、最高の専門的、科学的、倫理的基準を遵守しなければならない。
- 研究者は、思想的、政治的、金銭的なバイアスを排除し、客観的に研究を実施するものとし、研究の計画、実施、分析、解釈、報告において、個人的、経済的、金銭的な利害関係を開示するものとする。特に、研究者は、アサヒグループからの研究資金提供を含め、アサヒグループとの関係を、出版物や発表の場合に開示するものとする。
- 研究者は、その研究成果を自由に出版その他の方法で広めることができるものとし、その研究成果によって表明・表出された解釈、見解はすべて研究者に帰属するものとする。
- 公衆衛生に影響を及ぼさない専有情報または企業秘密を保護するため、研究結果の公表および展開は、関係研究者の総意により決定される合理的かつ倫理的な制限を受ける場合がある。
- 研究プログラムから得られた出版物は、可能な限り、学術出版で慣例となっている査読プロセスを経ることが奨励される。